参考資料 2 中央教育審議会 大学分科会 大学院部会(委員懇談会) H22.9.30

# 教育組織と研究組織を分離している 大学の事例

# 九州大学の教育研究組織(学府・研究院制度)

九州大学では、平成12年4月の「全学大学院重点化」(大学院により重点をおいて、教育研究組織を構成すること)の完了とともに全国でも初めての「学府・研究院」制度を設けました。これは、大学院の教育研究組織である「研究科」を大学院の教育組織としての「学府」(Graduate School)と教員の所属する研究組織である「研究院」(Faculty)とに分離して、相互の柔軟な連携を図るものです。(図1)

大学院重点化に伴って、教員の所属は従来の学部から大学院に移り、さらに大学院を教育組織と研究組織に分離することにより、学府・学部教育への研究院の枠を越えた教員の多様な参加が可能となりました。(図2)また、教育・研究双方の組織をそれぞれの必要性から独自に再編することが可能となりました。

(図1)

# **业** 九州大学

学府・研究院制度

# ◎九州大学の教育研究組織(学府・研究院制度)

平成12年4月に、大学院の重点化が完了し、大学院の教育研究組織である「研究科」を、大学院の教育組織としての「学府」と、教員の所属する研究組織である「研究院」とに分離し、相互の柔軟な連携を図ることを目指した全国で初めての「学府・研究院」制度を導入。



- 学府・学部教育への研究院の枠を越えた教員の参加が可能となった。
- 教育組織と研究組織を、それぞれ必要に応じて、独自に再編することが可能となった。

# 大学院重点化大学



# 九州大学



学府・研究院・学部の構成

人 文 科 学	府 人	、文科学研究	院 一 学 音	部
比較社会文化学	府	之較社会文化研究	院	
人 間 環 境 学	府人人	、間 環 境 学 研 究	院 教育学 音	部
法    学	府法	学 研 究	院	部
法 務 学	府			
経 済 学	府経	济 学 研 究	院 — 経 済 学 音	部
		語 文 化 研 究	院	
理    学	府 埋	! 学 研 究	院 理 学 音	部
数 理 学	府数	文 理 学 研 究	院	
システム生命科学	府			
医 学 系 学	府医	学 研 究	院 学 音	部
歯   学	府 歯	计 学 研 究	院 学 音	部
薬   学	府 楽	学 研 究	院 学 音	部
工   学	府	学 研 究	院 一	部
芸 術 工 学	府	活	院 芸 術 工 学 音	部
システム情報科学	府	ステム情報科学研究	院	
総合理工学	府 総	合理工学研究	院	
生物資源環境科学	府農	学 研 究	院 一	部
統合新領域学	府高	; 等 研 究	院	
		: 体防御医学研究	※ は、高度な研究活動を 推進するため、全学的な協力体制	
	∖∭応	、 用 力 学 研 究	所 のもとに設置されている研究院で	
	先	導物質化学研究	ある。 所	

(平成22年4月1日現在)

# 東北大学「教育情報学教育部」、「教育情報学研究部」の概要 (研究科以外の基本組織)

# 設置の趣旨

今日の情報コミュニケーション技術の急速な発展は、「知」の創造や伝達の方法に大きな変化をもたらす一方で、これまでの教育の目的や方法、制度等に大きな変動をもたらすことになり、そこにはITへのアクセス環境の差異等によって生じる社会的文化的格差や、教育の個別化と共同性の構築との関係の再設定など、多くの問題が指摘されており、これらの諸問題に的確に対応するため、教育と情報を軸とした学際的研究と教育を行うシステムとして「教育情報学教育部」「教育情報学研究部」を設置

# 教育面-

### 教育上の継続性・体系性の確保

教育科学及び情報科学分野での教育上の継続性・体系性を確保しつつ、社会的ニーズに対応した教育情報関連の総合的で高度かつ実践的な教育を実施するための教育組織を構築

# ─研 究 面─

### 研究の機動性・学際性の確保

教育科学及び情報科学を融合した学際分野 として体系化し、かつ、先端的実践的な研究 の推進による成果を創出していくため、研究 の機動性・学際性を有する柔軟な研究組織を 構築

教育面・研究面双方の相反した要請への対応



### 教育研究組織

分離

# 教育情報学教育部

近未来の社会的ニーズに対応し、教育情報に 関わる諸課題を体系化し、各固有の領域に対応 して完結した体系的、総合的教育を展開

[教育組織] (入学定員) 教育情報学専攻 修士12人、博士 5人

※ 研究部とは独立して、人材育成のニーズに 基づくカリキュラム改革等を行い、必要に応じ た教育内容の見直しを定期的に行う。

# 教育情報学研究部

複雑な教育情報学領域において、機動性・学際性を有した分野横断的な融合的・先端的・実 践的な研究を推進

### [研究部門]

- IT教育システム原論
- IT教育認知科学
- IT教育アーキテクチャー
- IT教育応用実践論

比較 [ T教育論 (客員研究部門)

※ 学際科学プロジェクトを実効あるものとするため、定期的な内部・外部評価に基づき平成19年度に研究部門を再編成し、組織的対応の機動性を高めた。

# 千葉大学「医学薬学府」、「医学研究院・薬学研究院」の概要 (研究科以外の基本組織)

# 設置の趣旨

21世紀に到来する高齢化社会に対する高齢科学、地球規模での環境汚染に対処する 0次予防を主眼とする環境・健康科学、国民医療をリードする先端生命科学などの新たな学問体系を確立し、21世紀の国民のリーダーとなる人材の育成に対応するため、研究と教育を行うシステムとして「医学薬学府」「医学研究院・薬学研究院」を設置



# 教 育 面

### 医学薬学境界領域型の教育の確保

医学、薬学分野にまたがる諸課題に対応するため、医学薬学境界領域型の学問に精通した人材の育成に対応できる柔軟な教育組織を 構築

### 研 究 面

### 特化型研究体制の確保

時代の要請に応じた高度化する先端的な研究を推進するため、医学・薬学がそれぞれの 領域において特化型研究が推進できるシステムを構築

教育面・研究面双方の相反した要請への対応



# 教育研究組織

分離

# 医学薬学府

医学研究院 • 薬学研究院

高齢化社会に対応するための高齢科学を専門とする人材、環境ホルモン等生殖細胞系列(子孫への影響)を科学する人材、化学療法の人材、遺伝子医療など高度な医療を支援する人材など医学・薬学の両方の知識を持つ人材を育成

# [教育組織] (入学定員)

環境健康科学専攻 博士(4年) 29人 先進医療科学専攻 博士(4年) 42人 先端生命科学専攻 博士(4年) 37人 創薬生命科学専攻 博士(3年) 13人

 医 科 学 専 攻 修士
 27人

 総合薬品科学専攻 修士
 50人

時代の要請に応じた高度化する先端的な研究 を推進するために、医学・薬学がそれぞれの領 域の特化型研究を推進

### [医学研究院:研究部門]

[薬学研究院:研究部門]

環 境 生 命 科 学薬 物 作 用分 子 創 薬 科 学

# 横浜国立大学大学院「工学府」、「工学研究院」の概要 (研究科以外の基本組織)

# 設置の趣旨

近時の工学系大学院における高度専門職業人養成のための多様な教育面での対応,一方で日進月歩する先端科学技術の分野横断的・学際的な研究面での対応を,それぞれにおいて適切に図っていくため、教育と研究を行うシステムとして「工学府」「工学研究院」を設置



# 教 育 面

教育上の継続性・体系性の確保

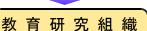
社会的要請を踏まえた先端科学技術分野での教育上の継続性・体系性を確保しつつ、多様で高度化した人材養成ニーズに伴う組織の改編等が柔軟に行えるシステムを構築

### 研 究 面

研究の流動性・柔軟性の確保

日進月歩の著しい工学分野の先端的研究を 推進し、先端的・融合的科学技術に対応した 組織の改編等が機動的に行える研究システム を構築

教育面・研究面双方の相反した要請への対応



分離

### 工学府

分野融合による先端科学技術分野の高度かつ 実践的な大学院教育を推進する観点から、研究 院の3部門や工学部の学科構成との連続性・接 続性、人材需要に配慮

「教育組織]

(入学定員)

機能発現工学専攻 修士87人、博士12人システム統合工学専攻 修士88人、博士13人社会空間システム学専攻 修士61人、博士10人物理情報工学専攻 修士107人、博士16人※ 研究院の改編とは独立して、人材育成のニーズに基づくカリキュラム改革等を行い、必要に応じた教育内容の見直しを定期的に行う。

工学研究院

「ものづくり」の学理と応用を基礎に、流動性・柔軟性を有した分野横断型の融合・先端研究を推進

### 「研究部門)

機能の創生システムの創生知的構造の創生

※ 産業界からの要請に的確に対応し、分野横断型の学際研究プロジェクトを実効あるものとするため、定期的な内部・外部評価により一定期間(10年程度)で見直すこととし、組織的対応の機動性を高める。

# 横浜国立大学大学院「環境情報学府」、「環境情報研究院」の概要 (研究科以外の基本組織)

# 設置の趣旨

産業構造の空洞化、地球環境問題の深刻化、人口構造の少子高齢化、情報技術 革新などそれぞれ異なる環境下において、種々の社会的問題が顕在化しており、 これらの社会的ニーズが時間的変化とともに大きく変わることが予想される流動 的な分野に的確に対応するため、「環境科学」と「情報科学」を軸とした文理融合 による分野横断的な教育と研究を行うシステムとして「環境情報学府」「環境情報 研究院」を設置



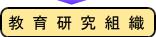
# 教 育 面

教育上の継続性・体系性の確保 環境科学及び情報科学分野での教育上の継 続性・体系性を確保しつつ、社会的ニーズに 対応した分野融合による環境情報関連の総合 的で高度かつ実践的な教育を実施する教育組 織を構築

# 研 究 面

研究の機動性・学際性の確保 環境科学及び情報科学分を文理融合分野と して体系化し、かつ、先端的、実践的な研究 の推進による成果を創出していくため、研究 の機動性・学際性を有する柔軟な研究組織を 構築

教育面・研究面双方の相反した要請への対応



分離

# 環境情報学府

環境情報研究院

社会的ニーズに対応し、環境に係わる諸課題 を体系化し、各固有の領域に対応して完結した 体系的、総合的教育を展開

### [教育組織] (入学定員)

環境生命学専攻修士33人、博士15人環境システム学専攻修士40人、博士16人情報が、17環境学専攻修士35人、博士15人環境(バーションマネジメント専攻修士10人、博士5人

環党スクマネジメント専攻 修士28人、博士9人

※ 研究院の改編とは独立して、人材育成のニーズに基づくカリキュラム改革等を行い、必要に応じた教育内容の見直しを定期的に行う。

複雑な環境問題領域と先端的な情報科学領域 において、機動性・学際性を有した分野横断的 な融合的・先端的・実践的な研究を推進

### [研究部門]

自然環境と情報 人工環境と情報 社会環境と情報

※ 分野融合型の学際研究プロジェクトを実効 あるものとするため、定期的な内部・外部評 価により一定期間(10年程度)で見直すこと とし、組織的対応の機動性を高める。

# 京都大学大学院「地球環境学教育部(地球環境学舎)」、 「地球環境学研究部(地球環境学堂)」の概要 (研究科以外の基本組織)

設置の趣旨

21世紀の幕開けと共に、20世紀社会が解決できずに積み残した人類的課題が地球環境問題であり、地球規模の問題から地域レベルの問題まで、課題の内容は複雑多岐に渡っている。これらの地球環境問題の解決に向けて、環境への負荷の少ない「持続可能な社会の構築」を目指し、環境に係る新たな文明理念と科学技術知を構築するため、「地球環境学教育部(地球環境学舎)」「地球環境学研究部(地球環境学堂)」を設置



# 教 育 面

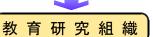
教育上の継続性・体系性の確保 地球環境学分野での継続性・体系性を確保 しつつ、様々な学問分野の複合的な展開によ り、環境問題の実践的解決に向けた高度な教 育を実施するための教育組織を構築

### 研 究 面

研究の機動性・学際性の確保

新しい地球環境学の創出を目指す融合型学問研究を推進し、広域化・複雑化する環境問題へ柔軟に対応するため、研究の機動性・学際性を有する研究組織を構築

教育面・研究面双方の相反した要請への対応



分離

### 地球環境学教育部 (地球環境学舎)

地球環境学研究部 (地球環境学堂)

人類的課題である地球環境問題に対応し、学際的、複合的に取り組む教育を展開して環境問題を解決する能力を有する問題解決型の人材を 養成

[教育組織](入学定員)地 球 環 境 学 専 攻博士13人環境マネジメント専攻修士44人、博士7人

※ 研究部の改編とは独立して、地球環境学の 先端性及び社会性を認識しつつ関連諸学にわ たる着実かつ重厚な教育を行うため、必要に 応じた教育内容の見直しを定期的に行う。 環境と調和して持続的に発展できる創造的社会の実現を目指した分野融合による新しい「地球環境学」の研究と人類と環境の理想的共生、環境調和型の文明規範の構築、地球規模での資源循環等の学際的な研究を推進

[学 廊]

※ 環境問題の広域化・複雑化への対応及び現 実の環境問題の解決に向けた学際的・総合的 研究を展開するため、定期的な評価により、 研究内容の組織的な見直しを行う。

# 北里大学「感染制御科学府」、「北里生命科学研究所」の概要 (研究科以外の基本組織)

# 設置の趣旨

近年、世界的規模での医療の高度化に伴い、疾病構造も大きく変化し、感染症への脅威が再認識され、感染症対策の重要性が高まるとともに、21世紀においては、高齢化に伴う多臓器障害を背景に、高齢者の生体防御機能の低下による感染症や付随する疾患の増大が危惧されている。これらに対応するため、感染制御の基礎的研究とその成果を創薬や臨床に結びつける探索医療的な研究を行う研究部としての「北里生命科学研究所」と感染制御に関わる研究を遂行できる能力を備えた人材養成のための問題解決型の大学院教育を行う教育部としての「感染制御科学府」を設置



# 教 育 面

教育上の継続性・体系性の確保 社会的要請を踏まえた感染制御科学分野で の教育上の継続性・体系性を確保しつつ、感 染制御研究を遂行できる高度の専門技術者の 養成に対応した実践的な教育組織を構築

# 研 究 面

研究の機動性・学際性の確保

感染制御の基礎的研究とその成果を創薬や 臨床に結びつける探索医療的な研究を行うた め、ゲノム解析を始め幅広い高度先端技術を 駆使できるよう、機動性・学際性を有する研 究組織を構築

教育面・研究面双方の相反した要請への対応



教育研究組織



# 感染制御科学府

# 北里生命科学研究所

社会的要請に対応し、感染制御と創薬について臨床応用を視野に入れた高度の専門知識と技術を有し、総合的視点からの問題解決能力を身につけた即戦力型の高度専門技術者を養成

[教育組織] (入学定員) 感染制御科学専攻 修士18人 博士4人 感染症の発症機構やワクチン、サーベイランスに関する研究や感染症の治療薬やゲノム解析とその応用に関する研究を推進

(平成13年度設置済)

「部門]

感染制御・免疫学

創 薬 科 学

特 別 研 究